議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町２７５１　電話 71-0423
2005.12.22 №１３０
FAX 71-2469

展望ロビー、休日も開放

新庁舎15階、土日祝日も10時～夜8時までＯＫ

12月13日の市議会本会議一般質問で私は、いよいよ1月4日から供用となる新庁舎の管理・運用について質問や提案をしました。その第1は、市内一のノッポビルとなる新庁舎を新しい鈴鹿の「名所」として、市民や来訪者に広く開放することです。最上階の15階は「展望ロビー」として、市内一円はもとより鈴鹿の山から伊勢の海まで、天気の良い日には木曽御岳や遠く富士山も眺めることができます。

市役所の執務時間の平日8時半～5時は、当然だれでも市役所に入れますが、休みの日に閉めてしまっては多くの市民が楽しめません。また夕暮れや夜景も見たいものです。私は「土日祝日、夜間も市民に開放すること」を求めました。市当局の答弁は、「1年間は、土日祝日の午前10時から午後8時まで開放する」と、これまでの短期間という姿勢から大きく前進しました。

みなさん、話のタネにぜひ一度はおいで下さい

執務時間以外は、一般市民は許可なしには庁舎に入れませんし、職員も「指紋認証」とかで必要以外の所には行けません。しかし、展望ロビーにはだれでも自由に行けますし、ゆったり過ごすこともできます。もちろん無料で。1階南玄関から入り、直通エレベーターで上がります。１階と１５階に警備員が配置されますので、子どもや女性も安心して行けます。

市役所は「**市**民の**役**に立つ**所**」と書きます。市民のみなさんが新庁舎に気軽においでいただき、税金の使われ方、市民サービスなどに関心を高め、どんどん意見を寄せていただくことが、市政を良くすることにつながります。また展望ロビーだけでなく、その下１４階の市議会本会議場、１３階の委員会室および各会派の議員控室にも立ち寄っていただき、「市民の代表」の働きぶりにも大いに注目していただきたいと思います。

食堂のない新庁舎、お昼はどうする？

私はこの庁舎の設計図の段階から、どこにも食堂に類する施設がないことを指摘し、８００人の職員と多くの来庁者にひじょうに不便をかけるようなことは考え直すべきだと、何度も求めてきました。今回の質問でも、改めて今からでも対策をとただしました。

しかし返ってきた答えは、「弁当持参、または出前や業者弁当、外に行くことで」というもので、食堂は不要だという考えを変えていません。いま弁当業者の職員への売り込みが、さかんに行なわれているそうですが、オープン初日から昼前には、弁当屋さんが大挙してエレベーターを上へ下へという光景が予想されます。周辺の町に昔多くあった食堂も、ほんとに少なくなっていて、庁舎に来て昼を迎えた市民はどうしたらいいのでしょう。「えっ！この立派なビルに食堂もない？」とびっくりするのではないでしょうか。

新議場での論戦、時間制限つよめる

新庁舎１４階の市議会では、あらたに「対面式・一問一答方式」が取り入れられ、国会の予算委員会のように議員と執行部が本会議場で向き合って、議論を行なうようになります。

ところが、この活性化策とセットで議員一人の一般質問の時間が、６０分から４５分に削られてしまいました。共産党や無所属の議員は反対しましたが、議会運営委員会で決められました・

これは質問時間を「会派」ごとに、[４５分×人数]で割り当てる方法で、会派の議員がそれを１人６０分まで使うことができます。例えば３人会派の持ち時間は、４５分×３＝１３５分。質問する議員が２人ならば、６０分づつ使えます。

ところが共産党は毎回２人が質問するので、持ち時間はこれまでと比べて１５分も短くなってしまいます。いまでも時間が足らないのに、さらに窮屈になり言いたいことが十分言えなくなるのです。同じ議員なのに、６０分発言できる者と４５分しかできない者という格差ができたことになります。

同様に議案に対する質疑の時間も、６０分から４５分に削られました。せっかく新しい議場での論戦に意欲を湧かせているところに、水をかけられたような気分です。しかしそれなら、短くても「中身で勝負」だと工夫して、３月議会は頑張ろうと思っています。

国保税、来年度も平均５％引き下げ

今年５％ほど引き下げられた国民健康保険税が、来年度もさらに５％ほど引き下げになる予定が、１２月の国保運営協議会で決まりました。

今回の引き下げの内容は、**所得割を８．２％　→　７．２％に、資産割を２０％　→　１５％に**改定するもので、具体例は次のようになります。

●所得３３万円、資産税１０万円、２人世帯の場合
　税額　４７，０００円　→　４２，０００円　（－１０．６％）
●所得１０３万円、資産税１０万円、４人世帯の場合
　税額　１５２，４００円　→　１４０，４００円　（－７．９％）
●所得３５０万円、資産税１０万円、４人世帯の場合
　税額　４２９，９００円　→　３９３，２００円　（－８．５％）

ただし６５才以上・年金収入世帯は差し引き増に

この減税の効果は、小泉政治がすすめた「老年者控除」の廃止、「年金控除の引き下げ」により打ち消されて、若干の負担増になります。しかし、もし今回の引き下げがなかったら、高齢者の国保税はもっとはね上がることになります。

黒字・基金の１１億円還元せよの主張がみのる

私は９月議会一般質問で、「国保税はもっと下げられる」として、１６年度の繰越金６億９千万円と支払い基金４億４千万円、合わせて１１億円もの黒字を市民に還元すれば、今年並みの引き下げをもう１段階できるのではないか、とただしました。市の担当者は、この提案を受けて検討の約束をしました。そして、その検討結果が具体的に出たのです。私は担当者の努力を高く評価したいと思います。

しかし、そもそも１５、１６年度の２年連続３０％の大幅値上げの強行に端を発し、鈴鹿市の国保税が県下でトップ、税の収納率が県下ビリという不名誉な事態を作ったのも市当局であり、今回の２年連続引き下げは、その前の連続値上げがいかに間違っていたかを示すものだ、ということを十分に反省してもらうことが必要です。

ずいそう

昭和33年・三丁目の夕日

大評判の映画「三丁目の夕日」は、昭和３３年の東京下町の生活と人間模様を、少年の目から見たドラマである。私は主人公の少年たちよりちょっと下の５才、しかしその当時の庶民生活は東京でも地方の田舎でも大体同じで、無条件に「なつかしい」思いと、「今よりあの頃、あの時代の方が良かったのでは」との思いが混じり合って、２回も映画館に足を運んで見た。

父親との楽しかった思い出をなぞりながら

ちょうどアルツハイマーの最終段階を病院で過ごす父親を、毎日のぞきに行く合間にこの映画を見て、当時のことをいろいろと思い出していた。昭和３４年の夏休みに東京に連れて行ってもらって、建ったばかりの東京タワーに上ったこと、東海道線の丹那トンネルの長かったこと、大きな上野駅などを今もはっきり憶えている。また、主人公の少年と同じように毎月「少年画報」というマンガ雑誌を買ってきてもらうのが何よりの楽しみだった。次の号が出るまで、何度でもそれを読み返した。

父親は国鉄職員で、退職までずっと亀山駅に勤務していた。たまに亀山に自転車に乗せてもらって行き、立ち並ぶ商店街にわくわくし、駅でＳＬを飽きるほど眺めた。陸軍飛行場跡をガタガタ通ったことも、記憶にある。

映画と同じように、わが家の暮らしもだんだん良くなり、テレビが来た日、洗濯機が来た日、冷蔵庫が来た日、プロパンガスが入った日、水道が通った日、バイクを買った日などなども、しっかりと憶えている。戦後の貧しい生活が日に日に豊かになっていく、みんなが未来に希望をもっていた時代であった。田んぼや畑の手伝い、家の仕事もよくやらされたが、わが家はサラリーマンの兼業農家だったから、よその子どもほどではなかった。せがんで買ってもらったバットとボールを持っていくと、下手くそでもソフトボールに入れてもらえた。

１２月２日、父親は８０年の生涯を終えた。最後まで温厚でおとなしい人であった。学生時代、共産党に近づく息子を心配して下宿にやってきた父親に、国労から第２組合に移ったことを生意気にも「裏切り者」となじった時に、初めて見た淋しそうな表情が、いまも忘れられない。